岩盤ボーリング柱状図

調査名　主要地方道　西城比和線　地質調査業務委託（道路改良・単独）

事業・工事名

調査目的及び調査対象　道路　地すべり・斜面崩壊

ボーリング名	Bor.No.19	調査位置	広島県庄原市比和町三河内	北緯	34° 58’ 09.9921″
発注機関	広島県北部建設事務所庄原支所	調査期間	令和5年 7月25日～ 令和5年 8月 2日	東経	133° 02’ 18.9429″
調査業者名		主任技師		現場代理人	
コア鑑定者		ボーリング責任者			
孔口標高	TP 635.62m	角度	180°上 90° 下 0° 0°	方向	0°北 0° 270°西 90°東 180°南
地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種			
総削孔長	23.00m	試錐機	東邦地下工機D1-48型		
エンジン	ヤンマーディゼルNFD13-EK	ポンプ	東邦地下工機BG-3C		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名（模様）	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	コア形状	割れ目の状態	岩級区分	コア採取率 (%) / 最大コア長 (cm) / RQD [%]	記事	孔内水位／測定月日	標準貫入試験 深度－N値図	N値	深度	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量	原位置試験	室内試験	削孔月日	削孔速度 (cm/1)	孔径・孔壁保護	コアチューブ・ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	削水・送水量 (L/min)	排水量 (L/min)
	635.32	0.30		表土	暗茶								草根を含む表土																		
1				玉石混り砂質土	淡茶								硬質で青灰色の凝灰岩の礫を含む。 マトリックスは粘土分混りの砂質土 砂は極細粒砂～中粒砂。 最大φ15cm程度の玉石を含む。	7/28 1.00									400	125／ケーシング	打込み／HW/DI	0.0	0	0.0	貯0	0
2																							7/25	210 54							
3					淡茶									7/28 2.60										44 55	HW/DI		10.0	180	0.1	貯8	8 7
4					～																		7/26	58 52					0.1	貯8	8
5																								73					0.1	貯8	7
6					暗青灰									7/29 6.40									7/27	240 180	116／ケーシング	打込み／打込み	0.0 0.0	60 0	0.0	貯0	0
7																								64 73	HW/DI		10.0	180	0.1	貯8	7
8	627.72	7.90		強風化ひん岩	淡褐	w5	h2	E	Ⅶ	d	D		強風化したひん岩。指圧にて崩れる。一部硬質な凝灰岩礫を含む。 GL-8.20～9.20m付近軟質で粘土を含む。 GL-9.30～10.00m間、黄褐色の変質粘土を含む。											80							
9																								180		打込み	0.0	0	0.0	貯0	0
10	625.02	10.60																					7/28	95		HW/DI	10.0	180	0.1	貯8	0
11				風化ひん岩	黄褐	w4	h2	D	Ⅵ	c	D		全体的に変質し斑晶を含む変質したひん岩で岩片状-土砂状コア。 GL-13.50m付近は岩片状を呈す。									200			打込み	0.0	0	0.0	貯0	0
12																							7/29	100					0.1	貯8	8
13					～								全体的に水平及び斜め亀裂が確認される。亀裂面は黒～褐色を呈し、周囲は褐色となる。 GL-14.50～15.70m間、垂直方向の幅0.20～1.00cm白色脈が発達する。											115						0.1	貯8	7
14																								87					0.1	貯8	0
15					茶褐				Ⅴ					9/33 14.85										83					0.1	貯8	5
16																							7/31	88							
17	618.92	16.70		アプライト	灰白		h3						ひん岩中に貫入したアプライト質花崗岩。GL-16.7-17.3m間は、熱水脈により軟質となる。										78 77		HW/DI	10.0	180			
18	617.82	17.80		ひん岩	暗褐灰	w3	h1	C	Ⅳ	c	CL		弱風化したひん岩。主に岩片状～礫状となる。 全体に斑晶が確認でき、長石は風化により白色化している。 GL-18.50m付近、GL-19.0m付近、GL-19.20m付近、19.50m付近土砂状になる。											90							
19																							8/1	100					0.1	貯8	0
20																								90 80							
21													GL-20.50m付近岩片状～土砂状となる。											62							
22													GL-20.80m付近の高角度の亀裂分布する。											68							
23	612.62	23.00											GL-22.90～23.00m間、礫状～土砂状となる。										8/2								
24																															
25																															

26
27
28